

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2005-520489(P2005-520489A)

【公表日】平成17年7月14日(2005.7.14)

【年通号数】公開・登録公報2005-027

【出願番号】特願2003-519238(P2003-519238)

【国際特許分類】

C 1 2 N	15/09	(2006.01)
A 6 1 K	31/7088	(2006.01)
A 6 1 K	31/7115	(2006.01)
A 6 1 K	31/712	(2006.01)
A 6 1 K	31/7125	(2006.01)
A 6 1 K	48/00	(2006.01)
A 6 1 P	3/06	(2006.01)
A 6 1 P	9/00	(2006.01)
A 6 1 P	9/10	(2006.01)

【F I】

C 1 2 N	15/00	Z N A A
A 6 1 K	31/7088	
A 6 1 K	31/7115	
A 6 1 K	31/712	
A 6 1 K	31/7125	
A 6 1 K	48/00	
A 6 1 P	3/06	
A 6 1 P	9/00	
A 6 1 P	9/10	1 0 1

【手続補正書】

【提出日】平成17年5月26日(2005.5.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ヒトアポリボタンパク質(a)をコードする核酸分子と特異的にハイブリダイズしかつヒトアポリボタンパク質(a)の発現を阻害する、ヒトアポリボタンパク質(a)をコードする核酸分子に標的を定められた長さ8ないし50核酸塩基の化合物。

【請求項2】

アンチセンスオリゴヌクレオチドである、請求項1記載の化合物。

【請求項3】

アンチセンスヌクレオチドが、配列番号7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、28、29、30、31、32、33、34、35、36、37、38、39、40もしくは41を含んで成る配列を有する、請求項2記載の化合物。

【請求項4】

アンチセンスオリゴヌクレオチドが最低1個の修飾ヌクレオシド間結合を含んで成る、

請求項 2 記載の化合物。

【請求項 5】

修飾ヌクレオシド間結合がホスホロチオエート結合である、請求項 4 記載の化合物。

【請求項 6】

アンチセンスオリゴヌクレオチドが最低 1 個の修飾糖部分を含んで成る、請求項 2 記載の化合物。

【請求項 7】

修飾糖部分が 2'-O-メトキシエチル糖部分である、請求項 6 記載の化合物。

【請求項 8】

アンチセンスオリゴヌクレオチドが最低 1 個の修飾核酸塩基を含んで成る、請求項 2 記載の化合物。

【請求項 9】

修飾核酸塩基が 5'-メチルシトシンである、請求項 8 記載の化合物。

【請求項 10】

アンチセンスオリゴヌクレオチドがキメラオリゴヌクレオチドである、請求項 2 記載の化合物。

【請求項 11】

ヒトアポリポタンパク質 (a) をコードする核酸分子上の活性部位の最低 8 核酸塩基部分と特異的にハイブリダイズする、長さ 8 ないし 50 核酸塩基の化合物。

【請求項 12】

請求項 1 記載の化合物および製薬学的に許容できる担体もしくは希釈剤を含んで成る組成物。

【請求項 13】

コロイド分散系をさらに含んで成る、請求項 12 記載の組成物。

【請求項 14】

化合物がアンチセンスオリゴヌクレオチドである、請求項 12 記載の組成物。

【請求項 15】

ヒトアポリポタンパク質 (a) の発現が阻害されるように、細胞もしくは組織を請求項 1 記載の化合物と接触させることを含んで成る、前記細胞もしくは組織中のヒトアポリポタンパク質 (a) の発現の阻害方法。

【請求項 16】

ヒトアポリポタンパク質 (a) に関する疾患もしくは状態を処置するための薬剤の製造のための請求項 1 記載の化合物の使用。

【請求項 17】

状態が異常な脂質代謝を伴う、請求項 16 記載の使用。

【請求項 18】

状態が異常なコレステロール代謝を伴う、請求項 16 記載の使用。

【請求項 19】

状態がアテローム硬化症である、請求項 16 記載の使用。

【請求項 20】

疾患が心血管系疾患である、請求項 16 記載の使用。